

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3147922号
(U3147922)

(45) 発行日 平成21年1月29日(2009.1.29)

(24) 登録日 平成21年1月7日(2009.1.7)

(51) Int.Cl.

A 4 3 D 8/00 (2006.01)

F 1

A 4 3 D 8/00

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2008-8022 (U2008-8022)
(22) 出願日 平成20年10月20日(2008.10.20)(73) 実用新案権者 508339389
市瀬 絵里子
神奈川県横須賀市馬堀海岸1丁目28番5号
(72) 考案者 市瀬 絵里子
神奈川県横須賀市馬堀海岸1丁目28番5号
(72) 考案者 海川 和秀
神奈川県横須賀市佐野町5丁目9番6号
(72) 考案者 中山 有美
神奈川県横須賀市船越町6丁目16番55
日神パレステージ横須賀田浦301号

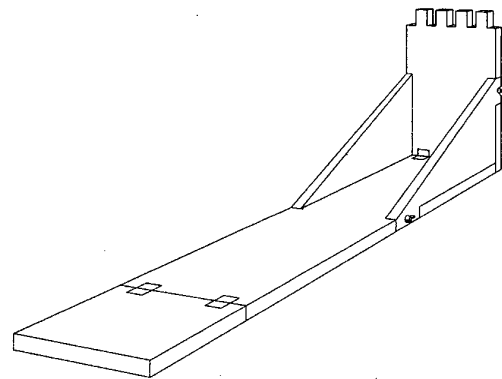
(54) 【考案の名称】 おりたたみ式布ぞうり作業台

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】組み立て可能で、コンパクトに収納でき、持ち運びに便利で、かつ強度確保できる布ぞうりを編みこむための作業台を提供する。

【解決手段】布ぞうりを編み込むための作業台において、底板と立て板と2枚の側板とを具備し、立て板には足指変わりの突起があり、底板と立て板をちょうつがいをつなぎ、これらの板に切り欠きを設け、組み立て、分解ができるように形成し、さらに蝶ネジで固定する。切り欠きを設けたことにより、組み立てができ、収納に便利である。さらに蝶ネジで固定したことにより、強度が確保されるとともに、組み立てやすくすることができる。

【選択図】図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

布ぞうりを編み込むための作業台において、木製の立て板、底板、2枚の側板を具備し、前記立て板は足指変わりの凹凸状の突起を有する編み台であり、前記底板は立て板を開閉できるようにちょうつがいであつないでおり、前記側板は三角形をしており、切り欠きの空部が2つあるので、立て板と底板の両脇にある切り欠きの溝にはめこんで補強し、底板と立て板を直角にして組み立て、かつ分解可能であり、収納に便利であることを特徴とする、布ぞうりを編み込むための作業台。

【請求項 2】

布ぞうりを編み込むための作業台において、編みこむ場合に側板が外れないように、側板の切り欠きの空部を蝶ネジで固定して、強度確保することを特徴とする請求項1記載の布ぞうりを編み込むための作業台。

10

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、布ぞうりを編み込むための作業台に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

わらじ編みを元にした布ぞうりの製法は、例えば、特許文献1のごとく座って自分の両足の指に布ぞうりの芯になるロープを掛けて編んでいた。しかし、足腰への負担がかかるため、足指を使用せずに済む作業台がある。

20

作業台には、床での作業台が、例えば特許文献2図3、特許文献6、特許文献7に記載されており、また手編み台、例えば特許文献2～4があり、本考案は前者の床での作業台にあたる。前者を採用すると、力いっぱい編み目を締められ、しっかり編みこんでいるので丈夫な布ぞうりができる。

【0003】

以下、非特許文献1により改良前の固定式作業台について説明する。

固定式作業台の部品は木製の底板a、底板b、立て板、2枚の側板で構成する。立て板には足指代わりの突起がある。

必要な道具は、糸ノコかのこぎり、ドライバー、ものさし、ネジクギ、ちょうつがいである。つくり方は、底板aと底板bをちょうつがいによって2箇所つなげてから、底板aに垂直に立て板をとりつけ、三角形の側板をとりつけて補強する。

30

収納しやすいよう、すでに、底板aと底板bが折り曲げられるよう改良したり、側板の取り付け方を工夫していたが、大きなL字型の作業台で、完全には畳めるものではなかったため、持ち運びに負担がかかったり、収納が不便だった。

布ぞうりを作る方も増え、より使い勝手も良いものが求められている。

【0004】

次に、布ぞうりの作り方を、例えば特許文献5について説明する。布ぞうりは本体、鼻緒、前緒からなる。

作業台の立て板を正面にし、底板aと底板bの間に座り、足指代わりの立て板の凹凸状の突起にぞうりの芯になるロープをひっかけてタテ系にし、編み始めのロープを結んだら、布をはたを織るように横にくぐらせて編みこんでいき、何段か編むごとにロープの間の布を手前に寄せ、鼻緒をつけ、ロープを下に引っ張りぞうりの形にして、前緒をつけたら完成する。

40

【0005】

特許文献2図3、特許文献6、特許文献7は従来の作業台である。

特許文献2図3では、立て板と底板を接着し、それにより生じた直角面から直角三角形状に板をつけて補強しており、強度が確保されているが、折りたたみができず、持ち運びに負担がかかる問題点がある。

特許文献6では、立て板と底板を扇状の固定具で補強しており、強度が確保されているが

50

、折りたたみができず、持ち運びに負担がかかる問題点がある。

特許文献 7 図 2 では、立て板と底板に穴があり、支持干の突起を差し込んで補強しており、さらに高さを変えるために立て板が回転するもので、組み立てができ持ち運びに便利だが、複雑な構造のため、折りたたみがしにくく、組み立てにくく、固定が弱い可能性があり、使用者は作業台の部品を自力で作ることが困難なため作業台を購入しなければならないという問題点がある。

【 0 0 0 6 】

【特許文献 1】登録実用新案第 3 0 5 5 4 7 6 号

【特許文献 2】登録実用新案第 3 0 8 4 1 0 5 号

【特許文献 3】登録実用新案第 3 1 4 4 5 1 2 号

【特許文献 4】登録実用新案第 3 1 4 0 0 8 6 号

【特許文献 5】登録実用新案第 3 1 2 6 2 4 6 号

【特許文献 6】登録実用新案第 3 1 1 4 2 0 1 号

【特許文献 7】登録実用新案第 3 1 1 6 4 8 6 号

【非特許文献 1】「編んで楽しい！履いて快適！手づくり布ぞうり」，日本文芸社，2 0 0 7 年，p . 5 9 頁

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【 0 0 0 7 】

そこで、本考案が解決しようとする課題は、組み立て可能で、コンパクトに収納でき、持ち運びに便利で、かつ強度確保できる布ぞうりを編みこむための作業台を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 8 】

そして、本考案は上記課題を解決するために、請求項 1 に記載の考案は、布ぞうりを編み込むための作業台において、木製の立て板、底板、2 枚の側板を具備し、前記立て板は足指変わりの凹凸状の突起を有する編み台であり、前記底板は立て板を開閉できるようにちょうつがいとつないでおり、前記側板は三角形をしており、切り欠きの空部が 2 つあるので、立て板と底板の両脇にある切り欠きの溝にはめこんで補強し、底板と立て板を直角にして組み立て、かつ分解可能であり、収納に便利であることを特徴とする。

【 0 0 0 9 】

また、請求項 2 に記載の考案は、請求項 1 に記載の布ぞうりを編み込むための作業台において、編みこむ場合に側板が外れないように、側板の切り欠きの空部を蝶ネジで固定して、強度確保することを特徴とする。

【考案の効果】

【 0 0 1 0 】

本考案の作業台は、組み立てができ、コンパクトに収納することができ、持ち運びがしやすく、また強度を確保することができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 1 】

本考案の作業台は、組み立て可能な構成や、強度を確保するために切り欠きや蝶ネジを設ける。

【実施例 1】

【 0 0 1 2 】

以下、本考案の実施の形態を図 1、図 2、図 3 に基づいて説明する。

図 1 は本考案の斜視図、図 2 は分解斜視図、図 3 は部品構成を示す図である。

図中、1 は底板 a、2 は底板 b、3 は立て板、4 は側板、5 はちょうつがい、6 は切り欠き、7 は蝶ネジである。

【 0 0 1 3 】

図 1 に示すように、本考案の作業台は板に切り欠きを設けていて、組み立てが可能で、コ

10

20

30

40

50

ンパクトに収納ができる。

また、図 3 に示すように、本考案の作業台の部品構成は底板 1、底板 2、立て板 3、側板 4 である。

また、図 2 に示すように、本考案の作業台は底板 1 と底板 2 をちょうつがい 5 でつなげ、底板 1 と立て板 3 もちょうつがい 5 でつなげている。

立て板 3 には足指代わりの凹凸状の突起がある。この図の例では突起が 4 つあり、3 つの溝が設けられ、ロープのかけ方で幅を変えることができる。

底板 1 と立て板 3 の両脇には切り欠きの溝 6 があって、補強材の三角形の側板 4 には切り欠きの空部 6 が 2 つある。

【 0 0 1 4 】

10

また、本考案の作業台の組み立て手順は次のとおりである。

使用者はまず立て板 3 を垂直に立てる。次に、底板 1 と底板 2 を開く。次に、左右の側板 4 の空部を、底板 1 と立て板 3 にある切り欠きの溝 6 にはめこみ、蝶ネジ 7 でとめる。

【 0 0 1 5 】

また、収納するため、使用者はまず蝶ネジ 7 を外す。次に、側板 4 を外す。次に、底板 1 と底板 2 を閉じ、立て板 3 を閉じ、蝶ネジ 7 を無くさないようにもう一度とめておく。

【 0 0 1 6 】

本考案の作業台があると、従来と同様に、足腰に負担が少なく布ぞうりを編むことが可能となる。

さらに、作業台は組み立てが可能で、コンパクトに収納でき、持ち運びに便利である。

20

具体的に、改良前の固定式作業台の組み立てた状態の体積と、本考案の作業台の畳んだ状態の体積を比較すると、高さが約 0 . 1 7 倍、体積が約 0 . 1 4 倍に縮小した。

【 0 0 1 7 】

また、単純な構造で組み立てに専門知識が不要である。また、切り欠き工程は日曜大工程度の技術があれば、作ることができる。

【 実施例 2 】

【 0 0 1 8 】

図 4 は側面図・平面図・背面図・正面図である。

図 4 に示すように、本考案の作業台は、底板 1 と立て板 3 の切り欠き溝部分 6 に鬼目ナット 7 を埋め込み、側板 4 の空部をはめこみ蝶ネジ 7 で固定する特長がある。

30

【 0 0 1 9 】

使用者は、何段か編むごとにロープの間の布を手前に寄せ、力いっぱい編み目を引き締めるが、蝶ネジ 7 で固定しているため側板 4 が外れることはない。

また、改良前の固定式作業台のネジクギの代わりに蝶ネジを使った場合には、蝶ネジの数が多くなるが、本考案は建築や玩具に使用されている切り欠きを採用しており、頑丈に組み立ててあるため、蝶ネジの本数を減らすことができる。

【 0 0 2 0 】

利点は、改良後も改良前の固定式作業台と同等の強度が確保でき、しっかり編みこむことができる。

【 産業上の利用可能性 】

40

【 0 0 2 1 】

本考案は布ぞうりの作業台に関する。

わら、いぐさ、竹皮、紙、かば、とうもろこし皮、アダン葉などのぞうりの作業台にも適用できる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 2 】

【 図 1 】本考案の斜視図である。（実施例 1）

【 図 2 】本考案の分解斜視図である。

【 図 3 】本考案の部品構成を示す図である。

【 図 4 】本考案の側面図・平面図・背面図・正面図である。（実施例 2）

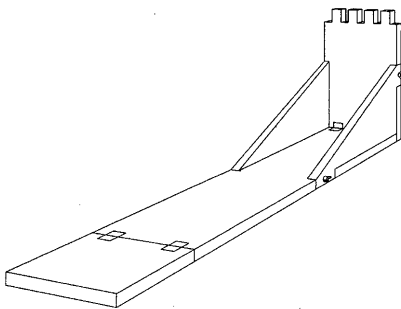
50

【符号の説明】

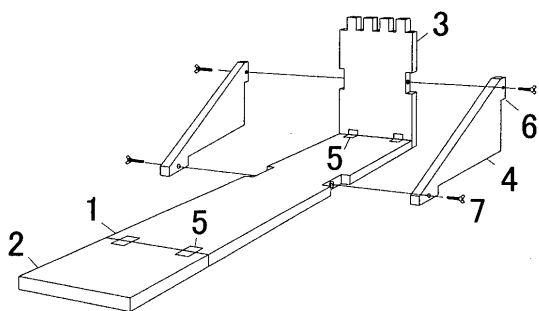
【0023】

- 1 底板 a
- 2 底板 b
- 3 立て板
- 4 側板
- 5 ちょうつがい
- 6 切り欠き
- 7 蝶ネジ

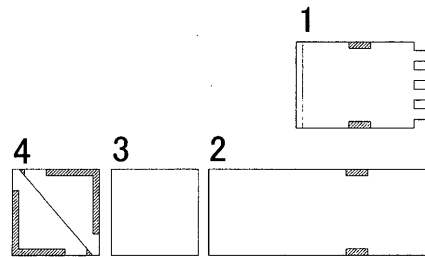
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

